様式第３号

事　業　実　施　概　要　報　告　書

|  |  |
| --- | --- |
| 事　 業 　名 | オホーツク管内子ども会育成連絡協議会指導者研究協議会 |
| と　　　　き | 令和２年１１月１４日（土） |
| と 　こ 　ろ | 紋別生涯学習センター（紋別市元紋別140-1） |
| 参 加 者 数 | ３８名 |

主な内容　　（プログラムの主な内容について書いてください）

|  |
| --- |
| （１）情報提供　オホーツク教育局社会教育指導班　平下　祐哉　氏 |
| 人口減少社会の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策（答申）と子ども会 |
| 活動がどのように結びつくかを解説。子ども会は社会教育において大切な「人づくり、 |
| 地域づくり、つながりづくり」ができる活動である。 |
| （２）安全啓発講習会　子ども会安全啓発初級指導者　高田　直紀　氏 |
| パワーポイント資料に基づき、事故発生までのリスクについて説明。 |
| 危険につながる要因は外的要因と内的要因の２つに分けられる。活動指導者の例年 |
| どおりやっていれば大丈夫といった気持ちに問題がある。 |
| 説明後、実演形式で危険予知トレーニングを実施。指導者が積極的に発言していた。 |
| （３）講演会「子ども会活動の取組事例と今後に向けて」 |
| 苫小牧市子ども会育成連絡協議会　事務局長　鈴木　一恵　氏 |
| 自身のリーダークラブでの活動経験から現在の子ども会活動に携わるまでを講演。 |
| 活動の原点にはリーダーでの活動が楽しかったことにあるとのこと。今後少子化で |
| 子どもの数が減っていき子ども会活動も衰退していくが、活動を少しでも長く続け |
| るためには保護者を巻き込めるかが大切である。講演の最後には参加者（育成者・ |
| ジュニアリーダー）との対話形式で今後の子ども会活動について考えた。 |
| ２.今後予想される成果 |
| ３名の講演を受け、子ども会活動が地域社会に与えている影響について各市町村子連会長及び |
| 関係者は再認識できたと考えます。また、実施後各市町村子連において活動の見直しや今後の子 |
| ども会活動をどのように継続していくか考え、子ども会活動をよりよい方向に導いてくれるもの |
| と思います。研究協議会に初めて参加した、リーダーの子どもたちについては、ＫＹＴや鈴木氏 |
| の子ども会時の話など、理解できる部分もあったと感じますので、子どもたちが将来子ども会活 |
| 動を育成者として行うきっかけにもなったのではないかと考えます。 |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |